

CONTRABASS

コントラバス

小金丸章斗 こがねまる・あきと



◆出身 福岡第一高校、東京音楽大学
◆所属 名古屋フィルハーモニー交響楽団
◆趣味 散歩、ドライブ
◆血液型 A型
◆星座 かに座
◆読者にひとこと 石の上にも三年。今日は昨日よりうまくなる!
◆手紙の送り先 akitokoganemaru@hotmail.co.jp、BJ 気付

ひじの向きに気をつけて、「ようかん」のような音で弾こう

みなさんこんにちは。コンクールシーズンの暑い夏がやってきましたね。忙しい時期だと思いますが、そんなときこそ毎日少しずつの基礎の積み重ねが大切です。今月も一緒に練習していきましょう!

開放弦でのボウイング練習は感じをつかめてきましたか? 今回は右手の運弓をより確実にするためのボウイング練習です。簡単な楽譜ですが気をつけるポイントがたくさんあります。漠然と音を出すのではなく、目的を持って練習することが上達には欠かせません。

■ひじの向きを意識しよう

弦楽器は、弓の元では腕の重さを乗せやすいのですが、弓の先になると腕の重さを乗せづらくなるので、弓先では音が細く、弱くなります。「弓の元でしか、よい音は出せません」なんていうことにならないために、ひじの向きが重要なポイントになります。

[写真1]



[写真2]



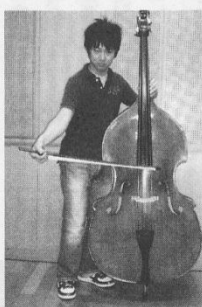
弓の元を弦の上に乗せて「さあ、弾きはじめるぞ」というときの、ひじの内側の向きに注目してください。ほとんどの人は【写真1】のように、斜め上に向いていると思います。弓の元はこれでいいのですが、このままのひじの向きで弓先に行くと、弓に乗せている腕の重さが抜けてしまいます。そこでポイント! 【写真2】のように、ダウンボウで弓先に行くにしたがって、ひじの内側を自分の方の方にひねるようにします。ひじの内側を上に向けたままのときより、腕の重さが弓に乗りやすいのが分かりますか?

この感じをつかむために、【譜例1】のダウンボウでクレッシェンドの練習をやってみましょう。上で説明したひじの向きに加えて、前回までの、

- ひじを曲げすぎない
- 手首をまっすぐ

- 弓の角度は弦と直角に

- 弾いている場所が弦の上で変



悪い例1 / ひじの内側が上を向き、わきが閉まっている



悪い例2 / ひじが曲がっていて、弓が弦に対して斜めになっている

[写真3]



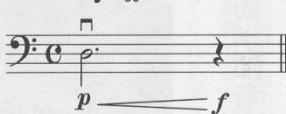
弓の先に行くにつれて、ひじの内側を自分の体の方にひねるようにする

[写真4]

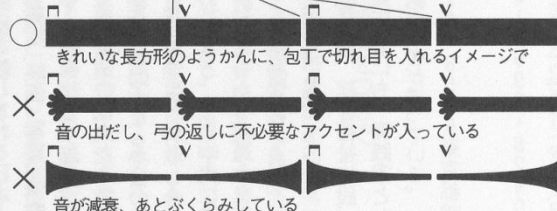


弓の先でも、ひじの向きがこのままだと腕の重さが乗らない

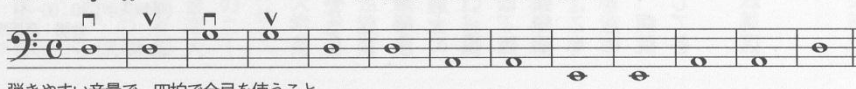
[譜例1] ♩ = 60



[図]



[譜例2] ♩ = 60



弾きやすい音量で、四拍で全弓を使うこと

わらないように
ということにも気をつけて、鏡を見ながら練習してみてください。慣れたら他の開放弦での練習もやってみてくださいね。

■音づくりの仕上げ、

「ようかん」の音をつくろう

それでは、ボウイングの基礎練習の総仕上げ! 【譜例2】の練習です。この練習で気をつけることは、

- 4拍で弓の元から先まで全部を使って弾く
- 弓のスピードはいつも同じ速さで弾く
- 音が途中でふくらんだり、やせたりしない
- 弓を返すときに、アクセントや雑音が入らないようにする

音を形にたとえることは多いのですが、僕は基礎練習のとき、いつも和菓子の「ようかん」をイメージしています(【図】)。どこをとっても同じ太さで、なめらかで適度に柔らかく、自由にいろいろな長さに切ることができるのが僕が思う音のイメージにぴったりなのです。

みなさんも【譜例2】の練習で、均一で長い「ようかんの音」をつくってみてください。

来月はリズムを使ったボウイング練習で、できあがった長いようかんを、いろいろな長さに切り分けていきます。また、引き続き質問や相談のメールも募集中です。ささいな疑問でもいいので、気軽にメールしてくださいね。それではまた次号!